

第三者意見

東京工業大学 環境・社会理工学院 教授
中崎 清彦 先生



本報告書は環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance)、すなわち ESG の 3 分野の構成となっており、従来、「社会性報告」に分類していた「コーポレート・ガバナンス」もガバナンスに分類しなおして、わかりやすい報告書のための工夫がなされている。

報告書の最初には、会社の長期ビジョン「100 年ブランドの確立」で何をめざしているか、それを実現するための第 8 次中期経営計画までの道筋が明示されており、2016 年度から 2018 年度に実施された第 5 次中期経営計画「Resonate 2018」の成果、加えて長期ビジョンの達成を加速するための第 6 次中期経営計画「Resonate 2021」の戦略が適正にまとめられている。「成長の為のさらなる基盤強化」のステージとした「Resonate 2021」の長期ビジョン中での位置づけも明確である。

また、事業と会社の概要については、売上高と経常利益が順調に増加していることが示されており、これは「第 10 回浜松国際ピアノコンクール」で、前回に引き続き、フルコンサートピアノ『SK-EX』を選定した奏者が優勝したことからも明らかのように確かな技術力を持ち、それを背景に適正な経営戦略がとられているためであろう。

なお、環境に対する取り組みについても数ページを費やして詳細な説明がおこなわれており、環境に十分に配慮した企業活動であることが示されている。「地球温暖化の防止」や「資源循環と資源の有効活用」による環境負荷低減では、生産工程の合理化や省エネルギーへの取り組みにより、2018 年度までの 3 ヶ年で目標としていた、CO₂ 排出量と廃棄物排出量の売上高原単位で 2015 年度比 3%削減を大きくクリアしている。また、2018 年度は、(株)河合楽器製作所、カワイ精密金属(株)、(株)カワイキャスティングの 3 社とも、エネルギー消費の削減目標を達成したことで、省エネ法の事業者クラス分け評価制度における優良事業者の S クラスの評価を受けている。以上のように、環境に対する取り組みは大きな成果に結びついている。

長期ビジョン「100 年ブランドの確立」には ALL KAWAI で臨むことが必要であろう。報告書に示されている教育研修プログラムの拡充による能力開発や、女性活躍推進を起点とした働き方改革などから「人材」の育成に真剣に取り組んでいる姿がみてとれる。なお、あえて財の字を用いているのは、人材を財(たから)と位置づけていることの表れであろう。人材の育成と活用で「100 年ブランドの確立」に向かって着実に前進するものと期待される。

第三者意見を受けて

中崎先生には、本年度も第三者意見として、本報告書に対するご評価、貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019 年度の報告書では当社の取り組みを ESG の各側面からまとめました。第三者意見では、この点を評価していただきました。新中期経営計画「Resonate 2021」では、ESG への取り組みを重要なテーマとして掲げています。各部門、社員一人ひとりが ESG 推進の意識を持って実践することをしっかりと推進してまいります。

当社グループの行動指針に掲げている通り、自然との共生を大切に、社会に役立つ活動を積極的に行い、音楽文化に貢献することにより企業価値の向上を図るとともに、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めてまいります。

(カワイ地球環境委員会 事務局)